

令和6年度 第1回中央市総合教育会議 議事録

招 集 日 時 令和6年2月14日（金）午後1時30分から午後2時30分まで

招 集 場 所 中央市役所 本館 2階 防災対策室2

出席構成員 市 長 望 月 智 教 育 長 石 田 秀 博
教育長職務代理者 志 村 祐 二 教 育 委 員 石 原 英 一
教 育 委 員 河 西 忠 衛 教 育 委 員 薬 袋 美 和

出席説明員 教育総務課長 功 刀 亜 紀 子 生涯教育課長 長 田 正 樹
教育指導監 中 村 文 彦

事務局職員 総 務 部 長 河 西 利 広 総 務 課 長 田 中 実
総 務 課 上 森 貴 之 総 務 課 杉 本 烈
総務行政担当

傍 聴 者 なし

協 議 事 項 第2次中央市教育振興基本計画(令和2年度～令和11年度)における中間見直しについて

議 事 録 次のとおり

事 務 局 これより令和6年度第1回中央市総合教育会議を開会いたします。それでは次第に沿って進めてまいります。はじめに、市長よりご挨拶を申し上げます。

市 長 本日は、お忙しい中、令和6年度第1回中央市総合教育会議のために、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の総合教育会議につきましては、中央市総合教育会議設置要綱に基づき開催するものとなります。協議内容としましては、令和2年度から令和11年度の10年間の計画として策定されています、第2次中央市教育振興基本計画の5年目ということで中間の見直しを行うために開催しております。これまでの取組の振り返りを行っていただく中で、計画を見直し、本基本計画が効果的に推進できますようご協力をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

| | |
|--------|---|
| 事務局 | <p>続きまして、議事に入ります。議事の進行につきましては、お手元に配布してあります中央市総合教育会議設置要綱第3条第4項の規定により、市長に進めていただきます。それでは、市長よろしくお願いたします。</p> |
| 市長 | <p>それでは、議事に入ります。お手元に配布してあります次第に沿って進めて行きたいと思ひます。</p> <p>○ 議 事 : 第2次中央市教育振興基本計画(令和2年度～令和11年度)における中間見直しについて</p> <p>それでは説明員から説明をお願いします。</p> |
| 教育総務課長 | <p>それでは、説明をさせていただきます。</p> <p>～(第2次中央市教育振興基本計画【中間見直し版】における、5年間の振り返りによる課題の整理、重点施策や今後の取組について説明)～</p> <p>以上、説明とさせていただきます。</p> |
| 市長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>教育委員の皆様から、説明を受けた中で、率直なご意見をいただければと思ひます。</p> |
| 石原教育委員 | <p>「第4章 課題の整理」の中で、「確かな学力の育成」の主な課題として「ICTを効果的に活用した授業の改善が求められている。」と挙げられています。それに対して、「第6章 具体的施策と目標数値」では、「情報活用能力の育成」という施策の中で「中央市教育ICT推進計画に基づき、計画的に一人一台端末の利活用や校務DX(デジタルトランスフォーメーション)の促進を進めます。」と挙げられています。</p> <p>ICTを授業改善に活かしていくとするのであれば、子どもたちに指導する先生方の活用能力を高めなければいけないと思ひます。そのためには、学校間格差があるということについて考えて、進めていかなければなりません。教師の活用能力を高めていくような研修や講習会が、子どもたちの学力を向上する施策に繋がっていくのかなと思ひます。</p> |
| 市長 | <p>ありがとうございます。ICT教育を進めていくために、学校間格差を解消するような取組状況について、今後の考えとしてはどうでしょうか。</p> |
| 教育長 | <p>この計画の中では、課題として、一人一台端末の利活用や校務DXを促進していくということが挙げられており、各学校ではモデル校という形で、山梨大学の教授を指導員</p> |

としてお招きし、こういったデジタル教育を進めていけばよいのか指導いただきました。この成果として、先生方の意識が大きく改善されたという実感があります。

学校間格差について、昨年当初は大きな課題がありましたが、現在では、若い先生方がDXを活用し、精力的に各学校で改革が進められています。端末を使うスピードや理解力については、一年前と比べても大きく変わってきています。来年度もより進めていけるように計画をしているところです。

市長 学校間格差を感じている中でこういった取組を進めているという説明でしたが、委員の皆様意見はございますか。

石原委員 引き続き進めていただければと思います。専門的な知識を有する教育支援員もいるようですし、今年度の学校訪問の中でも、大変活用されているということが感じられました。

中には、一般の方がこの計画を見た時に、「校務DX」というと、事務的な部分の改革と考えるかもしれないかもしれませんが、教育の質、学力を向上させると想起できるような文言に替えていただけると分かりやすいかなと思います。

河西教育委員 感想になりますが、重点施策として挙げられている「コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくり」の進捗状況について、各学校で学校運営協議会を設置したところまでは良いと思います。ただ、その先の進捗状況の部分があまりうまく動いていないように感じます。一番の問題は、地域住民と学校関係者の意思の疎通ができていないという部分だと思います。

その中で、「今後の取組」として「研修会の開催や学校運営協議会において講師に指導助言をいただきながら活動することなどを推進できるよう、検討を進めていく」という点は良いかなと思いますが、「コミュニティ・スクールとは」ということを市民に伝えていかないと本来の形に機能しないのではないかなと思います。重点施策とある以上は、次の5年間はより成果の出る形に持っていくべきではないかなと思います。

また、「コミュニティ・スクールの活用計画」にある将来像では、「地域学校協働活動推進員を配置することを検討します。」とありますが、地域学校協働活動推進員とは、実際に配置されているのでしょうか。地域と学校の間を取り持つ役割がある「地域学校協働活動推進員」が配置されることで、より地域と学校と保護者、行政で子どもたちを育てていくという観点から活用計画を推進していけるとと思います。

市長 地域学校協働活動推進員を配置することを検討ということですが、教育委員会はそのような形で検討しているのですか。

教育指導監 来年度から、第1段階として、講師による研修会の開催や、学校運営協議会で指導助言をいただきながら活動を進めていくということを検討しています。その次の段階として、学校運営協議会を通してコミュニティ・スクールとしての活動を深めながら、市教

育委員会が委嘱し地域学校協働活動推進員を配置していくということで検討しています。

策定時の計画には、「地域学校協働活動推進員を配置することを検討します。」と記載されていますが、これを「配置することを目指します。」と配置の方向に進めていくことを考えています。

市長 ありがとうございます。他に意見はございますか。

志村教育委員 「子どもまもり隊」について近年加入者が減少傾向にあるそうですが、「子ども 110 番の家」についても最近あまり目にしなくなっている気がします。学校ごとに取り組んでいるのかもしれませんが、毎年更新し、継続のお願いをしているのでしょうか。

教育総務課 子ども 110 番の家については、学校ごとに毎年継続のお願いをしています。商店や、在宅している可能性の高い家庭にお願いしています。

子どもまもり隊についても、学校ごとをお願いをしている状況で、市教育委員会からはのぼり旗やグッズ等を支給しています。

志村委員 子どもまもり隊の加入者が減少傾向にあるという中で下方修正は致し方ないとは思いますが、そうなると、子ども 110 番の家の機能が重要になってくると思います。実態を把握し子どもの安全を守っていく方向性を引き続き検討していただければと思います。

子どもまもり隊は 20 年ほど前に立ち上げて、継続して協力していただけていますが、加入者数の見通しがたたなくなっているということで、もう少し力を入れてお願いしていく必要があると感じます。

教育総務課長 取組を進めていきたいと思えます。

市長 子ども 110 番の家の数は把握しているのですか。

教育総務課 学校ごとにおいて把握をしています。

教育長 子ども 110 番の家は、学校ごとで実施しているもので、例えば、通学路上で何かあった場合に飛び込めるように、110 番通報や救助するといった目的があります。昔は、各学校で看板を作り配布していましたが、現在は、子ども 110 番の家になるのは良くても、そういったものを貼ることに抵抗がある家庭もあります。

昔は、農家が多く、どなたかが家にいましたが、現在は核家族が多いため、学校でも依頼するのに苦慮しているというのが実情です。

| | |
|--------|---|
| 河西教育委員 | 私のところに、毎年P T Aの方が継続の依頼に来るので毎年更新はされていると思います。 |
| 志村教育委員 | 最近、工事現場の看板に「何かあったら声をかけてね」と書いてあるものを見つけました。子どもに対して看板を出して呼びかけをしているようです。 |
| 教 育 長 | 市教育委員会が指導という立場ではないですが、各学校に引き続きお願いをしていきたいと思います。 |
| 市 長 | 他に意見はございますか。 |
| 志村教育委員 | 「第4章 課題の整理」の中で、「豊かな心の育成」の主な課題として、「不登校の児童生徒が増加しており」と書かれています。 また、「地域の連携強化」の課題として、「学習を含めた子供の安全・安心な場所づくり」、「教育機会の保障」の課題として、「多様な教育ニーズへの対応」、「不登校の児童生徒の教育機会の確保」と書かれています。これらは中央市だけでなく社会全体で要求されている喫緊の課題であると思います。 外国籍の子どもについては、「第三の居場所」が充実されてきてとても良かったと感じています。同じように学校の中に居場所がなく、学校から遠のいてしまうような子どもたちの受け皿であるにじいろ教室の充実を今後の課題として取り組んでもらいたいです。 |
| 教育指導監 | にじいろ教室につきましては、不登校状態にある児童生徒の支援ができるように、昨年度指導員を増員しまして2名体制で行っています。そのため指導も充実していき、心に寄り添った指導をしていただいています。そのおかげもあって子どもたちが半日学校に来て、半日にじいろ教室に来て心の栄養を蓄えるというように、充実した支援ができているように思います。今後は、施設面の充実も求められますが、より充実した児童生徒への支援を進めてまいりたいと思います。 |
| 市 長 | 現在にじいろ教室の利用人数はどれくらいいますか？ |
| 教育指導監 | 現在のにじいろ教室は、昭和町と共同で設置しており、登録者数は、合計で10人です。中央市のみですと、6名で、そのうち実質利用している人数は3名です。 |
| 教 育 長 | にじいろ教室は、現在昭和町と共同で設置運営していますが、来年度から中央市単独設置となる予定です。その中で一番のキーポイントは、指導員になるかだと思います。当然施設の充実もあるのですが、不登校になってしまった児童生徒がなぜそうなってしまったのか、学校に戻れるようにするにはどうすれば良いのか、初動が大切になってくると思いますので、来年度は指導員の充実した配置を考えていきたいと思います。 |

| | |
|--------|--|
| 市 長 | 他に意見はございますか。 |
| 石原教育委員 | <p>「第4章 課題の整理」の中で、「学校施設の整備」の主な課題として、「設備の改修などを計画的に実施していく必要がある。」と書かれており、教育の質の基盤整備という面で言うと、ハード面の整備を全面に出していくというような表現になっているのだと思います。</p> <p>それと連動して、「第6章 具体的施策と目標数値」の基本目標3の基本方針2（1）学校施設の整備の施策として「安全・安心な教育環境の整備」の概要で、「学校の長寿命化改修を中心とした計画的な老朽化対策」とありますが、こちらには「など」という表現が含まれていません。この文言ですと、施策の選択肢が、学校の長寿命化改修のみに限定される意味合いになってしまいますので、選択肢を増やすという意味合いで「など」を付け加えて、「学校の長寿命化改修などを中心とした計画的な老朽化対策」という表現にした方が良いのではないかと思います。</p> |
| 教 育 長 | 石原委員の指摘のとおり、「学校の長寿命化改修や設備の改修など」という表現に変更としたいと思います。 |
| 市 長 | 今後パブリックコメントも行いますよね。 |
| 教育総務課長 | 策定委員会において最終的な字句の修正等を行い、その後パブリックコメントを令和7年3月中に行う予定です。 |
| 市 長 | <p>いただいた意見や提案を反映させてパブリックコメントを行っていきたいと思います。</p> <p>皆様から他になにかありますか。ないようであれば、議事につきましては以上になりますので進行をお返しいたします。</p> |
| 事 務 局 | <p>続きまして、次第の4. その他になりますが、次回の会議の開催についてです。総合教育会議で協議すべき事項の中に「緊急な問題が生じた場合」というものがありますので、必要な場合には会議を招集させていただきますが、特段緊急を要する問題がなければ、次回は来年度の開催を予定しておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、以上をもちまして令和6年度第1回中央市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。</p> |